

令和7年度第1回丹波市環境審議会

日時：令和7年10月28日（火）

14：00～16：00

場所：氷上住民センター 大会議室

出席委員（敬称略）

足立 篤夫、中川 卯衣、四方 啓介、近藤 明、横山 真弓、石倉 洋介、
山科 ゆみ子、三橋 弘宗、安達 司

欠席委員（敬称略）

坂谷 高義、荻野 良子、梅垣 守明、中原 康弘、足立 榮逸、石塚 和彦
事務局職員

田口部長、山内課長、荻野副課長、足立係長

1 開会

- (1)会議に関する説明
- (2)欠席委員に関する報告
- (3)資料の確認

2 当会議成立について（運営規則第3条）

事務局から委員全員の過半数出席による当会議成立の報告

3 議事録署名人について（運営規則第5条第2項）

会長、委員

4 あいさつ

会長

5 議事・報告

(1)第3次丹波市環境基本計画市民意識調査（案）について

事務局：資料1、2について説明

会長：説明ありがとうございました。ご意見、ご質問ございましたらお願いします。

委員：市民アンケートの1,200人はどのように選ばれるのですか。

事務局：無作為抽出となっています。ただし、年代によって回答率が偏らないよう調整し抽出します。

委員：事業所はどれくらいで、全体の何%ですか。

事務局：事業所につきましては300事業所予定しています。商工会に属しておられる事業者が2,000ほどありますので、約15%となります。

委員：市民の方は何%になるのですか。

事務局：市民については、人口を6万人と仮定しますと2%になります。

委員：市民アンケートの5ページ、問16の⑧にセアカゴケグモが挙がっているが、丹波市では確認されているのですか。

事務局：確認されています。

委員：丹波市では、⑦クビアカツヤカミキリが市内で確認されており、兵庫県ではこのクビアカツヤカミキリと、植物のナガエツルノゲイトウも確認されています。ナガエツルノゲイトウもこの中に入れてもよいかと思うのですが。

事務局：環境課で検討した中では、今現在、市内で確認されているものを挙げることにしています。

委員：わかりました。では、問15、問16にあるものは実際市内で見たことがあるという意味ですか。例えば、どこかの動物園、水族館で見たというのも入るといっていいのでしょうか。

事務局：市内で見たという想定ではありません。どこかでその生き物を見たことがあるという想定です。

委員：わかりました。

委員：市民アンケートの6ページ、問17「生物多様性に配慮した取組を日頃から行っていますか」という中で、「①地元の農産物を選んで購入する」とありますが、これと生物多様性との結びつきが分からないので教えてください。

事務局：②にある無農薬の野菜を買うという行動と同じような意味と捉えて入れています。地元の農産物を買うことで、地元の農業等が進んで荒れ地が少なくなることや生態系の保全という意味があります。

委員：わかりました。続きまして、15ページ、問45「③他地域からの転入者が増加すること」とありますが、これはどういう意味で環境項目に対する取組なのか教えてください。

事務局：住環境との関係で、今の環境基本計画の中で転入者に対する指標がありますのでここに入れていきます。

委員：私の中では、それは環境項目に対する取組とは直接的には結び付かない。他地域から来た人が悪さをするとか、そういうことではないと思うのですが、少し疑問があります。

部長：高齢化を迎えるにあたって、他地域の方に定住いただいて、力になっていただくという意味です。

委員：わかりました。

次に事業所アンケート、3ページ問7で、関心がない場合は問19までとぶようになっていますが、関心がないと答えた事業所でも、問8から問18までを答えてもらった方がよいのではないかと思うのですが。

事務局：確認して、間違いであれば修正します。

委員：先ほど、市内で確認されているものに対して、このアンケートをとるといって説明でしたが、市外で見たものもこのアンケートの対象になるというのは予

盾を感じます。

事務局：問 15 については、丹波市で代表するようなものや一般に希少な動植物を挙げています。

問 16 については、外来種でも、丹波市で人身や生態系、農作物に被害が生じうるような代表的な動植物を挙げています。

これに対する市民の方の認知度を問うており、希少生物・外来種について知らせていくこと、啓発していくことが大事であり、丹波市で見たかどうかについては重要視していません。ですから、市内で見たということに限ったものとはしていません。

会長：回答の並びが「写真やテレビなどで見たことがある」と続くので、どこで見ても良いのかなとも思いますが、どうでしょうか。

部長：これは、関心を持ってもらっているかどうかという質問で、市内に生息しているかどうかを調査するものではありません。

会長：「市内に限らず」などの文言を書いた方がより明確になって、回答する方が「市内に限る」と解釈することがなくなるので良いと思われそうですがどうでしょうか。

主旨としては認知したということで、広く設問するという形でよろしいでしょうか。

—異議なし—

委員：4 ページで「生物多様性という言葉を知っていますか」という質問がありますが、生物多様性という言葉を一一般の方に聞いて、知らない、聞いたことがないという人に対してこの後の設問をするか。

6 ページの「生物多様性に配慮した取組」とありますが、生物多様性の何に配慮しているのか、生物多様性を回復させるということに直結させるという意味なのか分かりにくい。生物多様性という言葉を使わない方が良いと思うのですが。

また、生物多様性という言葉を知っていますかと聞く前に、既に 3 ページで生物多様性という言葉は出てきている。生物多様性という言葉を知っている人は分かるのだろうか。

それより単純に質問をしていって、その結果として丹波市では生物多様性について取り組んでいくということ、基本計画に盛り込んでいくのは良いと思います。

生物多様性について、大半の人が意味は知らないという結果になるかと思うのですが、その知らない人に対して生物多様性について聞くことが有効なのか疑問に思います。

また、突然氷上回廊という言葉が出てくるが、これは生物多様性に関係しているのかよく分からない。

生物多様性という言葉を使わないで単純に質問をしていったら、例えば問

17 であっても、次のような環境に配慮した活動をしていますかというぐらいで良いのではないかと思います。

答えた結果に意味が出てこないような気がします。

その辺りを事務局の方で考えていただきたい。

会長：私もそういったことを事務局にはお伝えしたのですが。

事務局：生物多様性に関する間で、前後するようなところは修正します。

問 17、18、19 あたりは、今回生物多様性に関することを調査するために新たに出してきた項目ですので、問い方も含めて修正したいと思います。

会長：生物多様性という言葉を知っているかどうか聞くことは意味があると思うので、例えば最後に持っていくのも一つの方法かと思います。

また、設問のところでは生物多様性とあるところには、何か別の文言に入れ替えるというのも一つかと思います。

私も結果として、どれくらいの人が生物多様性について知っておられるかわかりませんが、例えば、以前に、大阪府では2割しか知らないという結果が出ていました。今はもっと認知されていると思いますが。

委員：総務省で生物多様性を知っていますかという同じようなアンケートをやっているのですが、丹波市は全国よりも上ですという結果になれば、丹波市はがんばっていますと言えます。

一時期は国家戦略とかでやっていたが、やはり分かりにくいので、環境という言葉に置き換えられるところは置き換えて、簡単にした方が良いと思います。

総務省のアンケートを見ていたら、関連する項目が何個かあるので、それと整合して比較できると立体的な考察ができると思います。

先ほど質問にあった地産地消とか移住とかが、なぜ環境と関係するのかというのは、コラムで書いておいた方が良いでしょう。

担い手がいなくなったら全てが終わる。環境どころではなくなる。

2040年の人口と高齢化率を書いておいたら、それだけで何が起こるか分かります。

若い人が見るので、難しい言葉をできるだけ減らさないと分からないと思う。水源涵養とか田舎の原風景・景観づくりとかは、自然景観を守るなど、もう少し簡単な選択肢にした方が良いでしょう。

委員：15 ページ、問 45 「③農林業の妨げとなる有害鳥獣が駆除されていること」とありますが、環境項目として駆除というのが挙がるのは、少し違和感があるので、例えば「野生動物の数を管理すること」というふうにされてはどうか。

また、「③他地域からの転入者が増加すること」も違和感があるので、「後継者の育成など人口増加の取組」というふうにされてはどうかと思います。

事務局：修正する方向で進めます。

委員：問 43、44 について、15 歳のお子さんには馴染みにくい質問かと思うのですが、15 歳まで対象とする意図は何ですか。

事務局：丹波市の取組の方向性として、子供や若者に対しても意見を聞いていくということがあります。

委員：アンケートの回収率は 5 割も取れたら御の字で、おそらく 3、4 割くらいになると思われます。

1,200 人の中で回答率を上げようと思うと、年齢を絞った方が良いのかなと思ったのですが、若い方の意見も聞くということで理解しました。

会長：このアンケートに答えるのに、どれくらいの時間がかかると想定されていますか。回答時間の目安を書いておくのもよいと思います。

委員：インターネット回答では、今、何問目を回答しているのか、分かるようにしておくのと良いと思います。

会長：はじめに何問ありますと書いておくのも良いと思う。

事務局：設問数は、市民アンケートが全部で 47 問、そのうち経年変化を見るものが 35 問、残りの 12 問は今回新規ということで、そのうち自然環境、生物多様性に関して増やしているのが 8 問となっています。

回答に要する時間については、この後確認したいと思います。

会長：事業所の方の回答率はどのような見通しですか。前回されたときなどは。

事務局：市民は 45%程度、事業所は 30%程度だったと思います。

部長：市民の方は、最近のほかの調査では、3 割程度に下がっている傾向です。

会長：事業所アンケート設問 7 で関心がない方は、それ以降の質問をとばすということはしないということでしょうか。

事務局：確認したいと思います。

委員：事業所アンケートは、各事業所の誰が回答するという想定でしょうか。

答える人の属性、例えば総務部門、環境部門、代表者、総務部長、あるいはアルバイトの方が答えるのでは違ってくると思うので、属性は聞いておいた方が良いと思いますが。

事務局：アンケートの 1 ページ目に「ご担当者様が代表してご回答ください」と書いていますが、全体を考える中で、この件も検討はさせていただきたいと思いません。

会長：アンケートの内容的には、アルバイトの方が回答できる内容ではないと思いますが、そこは企業にお任せするというだけでも良いかと思いません。

もし聞くのであれば、経営者、管理者、従業員などで分けるという方法もあるかと思いません。

それでは、今後の予定はどうなりますか。

事務局：このアンケートは、11 月中旬ごろの発送予定です。

この後ですが、アンケート修正について、正副会長様と確認を取りながら内容を確定させていただきまして、発送したいと思っています。

結果については、委員皆様にご周知させていただくということで、ご了解いただきたいと思います。

会長：それでは、私と副会長で修正箇所、今日いただいた意見について、事務局と相談しながら確認して修正して、発送という形に持っていきたいと思いますが、私と副会長に一任いただくということでよろしいでしょうか。

—異議なし—

ありがとうございます。この件については、これで審議終了ということで、次の報告事項に移りたいと思います。

(2)令和7年度丹波市環境報告書（令和6年度実績）（案）について

事務局：資料3について説明

会長：説明ありがとうございました。ご意見、ご質問ございましたらお願いします。

委員：21ページの下段、地球温暖化対策推進事業所認定件数ですが、令和5年度から令和6年度にかけて64件のままですが、分析欄には、1件の新規認定を行うことができたとあり、プラスマイナスゼロということは、どこか1件がやめられて減になっているということですか。

事務局：確認します。

委員：わかりました。

それと23ページ、急速充電器の利用回数や充電量が年々減少していると書かれています。これはほかにも充電設備が増えたから市役所にある充電設備の利用が減ったのか、どのような分析をされているのですか。

事務局：そのように認識しています。電気自動車の数が減ったということはありませんでした。自宅での充電も増えたのではないかと考えています。

委員：そのような理由も書かれたら、理解も深まるのではないかと思います。

会長：市内の充電施設の数把握されていますか。

事務局：把握はできていませんが、充電設備を見かけることが多くなり、増えてきているとは感じています。

委員：13ページですが、認定新規就農者数は目標を達成している、新規の方がこの4年間で23名増えたという状況の中で、一方で12ページの認定農業者数は減少傾向にある。この4年間で23名増えたがそれ以上に減っているという読み方で合っていますか。

であれば、やめていく数を抑えていかないと厳しいのではないかと。

この減っていく理由としては、高齢化により後継者がいなくなるので辞めざるを得ないという理解でよろしいか。

また、せっかく就農したのにやめていくということがあるのかなのかという新規就農者の状況の追跡、単に高齢化による後継者不足での自然減なのかなど、そのあたりを深く分析されれば、今後の対策を立てやすいのではないかと思います。

会長：やはり高齢でやめられるのですね。

事務局：担当は農林振興課になり、詳細はそちらに確認しなければ分かりませんが、おそらく高齢で認定農業者を辞められるということが、大きな要因かと思われれます。

委員：9ページ、使用木材量のグラフは違和感があります。物価高騰で木材の使用を止めてほかの材料に振り替えた人が多くなった、というような説明をされたような気がしますが、単純に考えると木材よりもほかの材料の方が高騰しているような気がします。

例えば、人件費の高騰や、その他いろいろなものの高騰で、木材使用の部分の価格を抑えなくてはならない、高価な地元産材から例えば輸入木材とか、他の地域の安いものに替えることで、地元産材の利用が減っているのではないかと思ったのですが、どれが正しいのかは農林振興課に聞かないと分かりませんが。

理由については、また農林振興課に確認しておいてください。

事務局：確認します。

委員：確かに住宅建築着工数が減っているというのは確かなことなので、木材以外の建築部材が、人件費も含めて高騰して住宅建築着工数が減り、そこに使われる木材も減ったというのは理には適っていると思います。

委員：今、丹波市内に居を構えて、小規模な農業を営む方が多くなっている。

丹波市では、以前は下限面積として、既耕作地と新規取得を合わせて30アール以上なければ農地を取得できないという取組をしていたが、最近はゼロから取得ができるように変わり、新規就農がしやすくなった。

農村の環境ということになると、住まいや周囲がしっかり管理されることが環境保全に繋がってくるため、農業自体にはあまり影響はないかもしれませんが、住まいの環境を考えるとこれは良いことだと思います。

なお、先ほどありました12ページの認定農業者と新規就農者とは、別の問題であるということは、押さえておいて欲しいと思います。

ほかに意見等ありますか。

—意見なし—

それでは、この報告書について、事務局で何か修正等ありましたら、私と副会長で確認させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

—異議なし—

6 その他

会長：それでは、事務局から説明願います。

事務局：資料4、令和8年度第3次丹波市環境基本計画の策定スケジュールについて説明

会長：予定していました議事は全て終了しました。

ほかに何かありますか。

副会長：生物多様性保全の中で、農地の保全の推進はあるのですが、本来の生物、例えば丹波市の希少なものや、普通種も含め年々減少している中で、以前に生物多様性について審議して欲しいということで、別の部会を設けてやろうということで進めていたが、途中でなくなってしまった。

今の丹波市内の状況がどうなっているか、ということ調べようということで、聞き取り調査とか、今まで調査されたことを記録していくということを環境課でされていました。

事務局：引き継いできた資料の中では、保全国体の方々から聞き取り調査をし、それを丹波市の地図に落とし込んで、ここでいつ確認されたというふうなもので、それが植物や鳥類、魚類などに整理されて保存されています。

副会長：それは終わった状態ですか。

事務局：その情報は、環境省「生き物ログ」にも登録はされており、一旦調査した内容は整理をして終わったものと認識しています。

副会長：そのことの周知はされていますか。

事務局：されていません。

副会長：その部会が途中でなくなっていますが、続けていかないといけないと思います。

委員：生物多様性戦略を丹波市が作ろうということで、ワーキング的にスタートしていたかと思います。

事務局：第3次丹波市環境基本計画の中では、生物多様性戦略を含んだ環境基本計画にしていきたいと考えています。

以前にそういった部会があったということは承知しており、理由は分かりませんがある時期から開催されていません。

委員：今後作成していくという方向ですか。

事務局：環境基本計画の構成の中で、生物多様性戦略というものが、一つの項目として含まれる場合と、戦略としての項目を一項目に納めずに、計画全体の所々に盛り込んだ環境基本計画兼生物多様性戦略という位置づけにすることもできると確認しています。

部長：個別の生物多様性戦略ではなく、環境基本計画の中に生物多様性のことを付け加えていく。基本計画ですので具体的に制度的なものを出すとかそういったものではなく、基本的な考え方をそこで示していくことで進めたいと考えています。

会長：以前から、丹波市は生物多様性について真剣にやられていたと思います。

環境基本計画は、概念、方針だけ決められて、その中に生物多様性も入ってくるとは思いますが、そこを特化してもう少し具体的な方法論に予算をつけて落とし込んでいくというような、計画書を作ってやっていくというのも一つの方法かと思います。

どういふ方法が良いのか、少し事務局で考えられてはと思います。

委員：おそらく前にやろうとしたのは現状評価で、生物多様性のどこをどうしていくかということを考える上でも、とにかく現状をしっかりと把握して評価していこうというところで止まっている印象があるのですが、せっかく集まったデータがあるのであれば、今後そのデータをどうやって集めていくのか、評価していくのかという、せめて方針だけでも話し合いができれば良いと思います。

生物多様性という新しい概念なので、何をしたら良いのか分かりにくいと思うので、できたらアクションプラン的な戦略も必要ではないかと思います。

会長：サブワーキングのようなものを作られていましたよね。

副会長：部会があったのですが、開催されなくなりました。

会長：復活させるのか、新しく考え直すのか、あるいは違うやり方が良いのか、事務局で検討いただきたいと思います。

他にありませんか。

事務局：今年、日本各地で熊の被害が連日報道されています。

丹波市においても気になるところであり、良い機会ですので、委員にお話いただきたいと思います。

(兵庫県立大学自然環境科学研究所 教授, 兵庫県森林動物研究センター 研究部長)

委員による熊に関する説明

7 閉会

副会長：本日は慎重審議していただきありがとうございました。